



太工 同窓会報

第37号

令和7年1月

群馬県立
太田工業高等学校
同窓会
0276 (45) 4742

同窓会事務局

同窓会報三十七号

発行によせて

同窓会会長 森川 道雄 (2M)



同窓会会員の皆様方におかれましては、学生や社会人一年生、会社員、自営業、後期高齢者まで、それぞれの立場や環境で日々ご活躍のこととご推察致します。また、同窓会事業に対しまして何かとご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

令和五年度の総会にて役員改選案が承認され二十年の長きにわたり会長をされておりました前会長大関貞夫氏の後任として第五代同窓会会長を拝命致しました。その責任の重さを痛感しているところですが会員皆様のご協力を賜り微力ながら頑張っていきたいと思っております。

前回の同窓会報は、令和二年発行でしたがその後の五年間で同窓会を取り巻く環境は大きく変化してきております。新型コロナウイルスによる社会環境の変化。為替変動によるインフレ、デジタル改革の進化、少子高齢化の加速、とりわけ少子化の加速による学生数の減少母校ではこの五年間で百九十七名から百

三十七名となり三十%減員は同窓会事業への影響が大きく今後も減少傾向は加速するため対応が喫緊の課題となつてきております。

同窓会設立から五十九年が経過会員数も一万四千人超の組織になってきております。同窓会予算の構成上、少子化が進むと活動予算が減少されてきます。会員数は増加、活動予算は減少と相反する環境の中で同窓会活動として、会員の皆様方への情報告知、同窓生支援や、母校の発展・生徒への支援事業のあり方等の検証と改善策の策定にむけ取り組んでまいります。

そのため本部役員とともに努力していく所存ですので会員皆様のご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

尚、末尾ですが、令和五年度総会役員改選にて退任されました、前会長大関貞夫氏、前副会長中村康美氏には同窓会活動に多大な貢献をされました事に感謝申し上げます。

さらに輝く太工に向けて

校長 鎌原 秀治



本年四月に第二十四代校長として着任いたしました鎌原秀治(かまはらひではる)と申します。

日頃より、同窓会長の森川道雄様をはじめ同窓会の皆様には、本校の教育活動に對しまして、御理解と御協力、また物心両面にわたり多大なる御支援を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

本校は、昭和三十六年の開校以来、一万四千名を超える卒業生を、次代を担う技術者として輩出し、今年六十四年目を迎える伝統ある工業高校です。重責を仰せつかり、身の引き締まる思いであります。

私は、二十八年前に本校電気科教諭として勤務をしておりました。この度の異動で、校長として就任できましたことは、大変嬉しく光栄なことであると同時に、「恩返しをしなくては」という責任の大きさや、プレッシャーを感じているところでもあります。これまで培ってきた経験と知識を活かし、本校の更なる発展に貢献させていただきたいと考えておりますのでどうぞ宜しくお願いいたします。

さて、歴史と伝統ある太田工業高校は、各界の様々な分野でご活躍されている多くの同窓生を輩出しています。ソチオリンピックと平昌オリンピックにスケート競技で連続出場を果たした坂爪亮介さん(平成二十年卒)、国体や

インターハイの陸上競技で活躍した菅井洋平さん(平成十六年卒)、令和五年度に「現代の名工」に選ばれた松崎一浩さん(昭和五十六年卒)、平成二十六年に「線美術展」で「文部科学大臣賞」を受賞した笠原久央さん(昭和四十年卒)、令和五年度に同展覧会の同賞を受賞した糸井優さん(昭和四十五年卒)や昭和五十八年第六十五回全国高等学校野球選手権大会出場など、このような素晴らしいご活躍と輝かしい実績は、生徒のみならず私たち教職員にとりましても誇りとするところであります。

在校生も、このような先輩方が築き上げた伝統を受け継ぎ様々な分野で活躍をしています。陸上競技部の関東大会出場をはじめ、他の運動部も上位大会進出に手が届くところまで力を着けてきております。また、研究部では、ロボット競技大会で全国大会出場、電気自動車大会においては県内三連覇を果たしており、向かうところ敵なしという活躍であります。更に、今年度から「DXハイスクール」の指定を受け、未来を担うデジタル人材の育成に向け取り組んでいるところでもあります。群馬県が推進する「eスポーツ」では、県内の高校の先頭に立ち、「地域創生」「群馬のブランド力向上」に向け活動をしています。

これからも生徒の夢の実現や、目標の達成に向けて尽力するとともに、地域の皆様にあされ、信頼される学校づくりに努めてまいりますので、同窓会の皆様におかれましては、引き続き本校の教育活動に、御指導と御支援を賜りますようお願い申し上げます。



会報三十七号発行によせて

相談役 大関 貞夫 (正)



同窓会会員の皆様方、如何お過ごしでしょうか。会員の皆様方におかれましては卒業後地域や職場等で御活躍されております事とご推察いたします。又、日頃より同窓会活動に對しましてご理解と御協力を賜りまして有難うございます。

私事で申し訳ありませんが此の度(二〇二三年)の同窓会総会において会長職を辞することいたしました。経過を少し述べさせて頂きますが、先代の会長が突然の急逝により会長席が空席となり運営上組織的に問題が生じてまいりましたので本部役員会にて話し合いました。その結果、一期生ということもありまして私が会長職を引き継ぐこととなりました。

その当時は本部役員の方々は企業や地域で現職で責任ある働き盛りという年代でした。このような状況の中でいかに本部の役員体制を強化するかという問題から手をつけ始めました。開校記念式典後の記念講演で同窓生を講師に推薦し講演をして頂き、講師に参事の役職を委嘱し人数

が増えたことで参事会を組織し代表を本部役員会に出席をして頂くことといたしました。会議の席では貴重な意見を述べて頂いております。又、同窓会活動に對し興味がある方々を本部役員に推薦をして頂きながら本部の役員体制を強化してまいりました。お陰で何とか役員会が軌道に乗ってまいりました。

又、この間冬季オリンピック選手の出場が決定し、ホテルにて壮行会を開催し激励金を手渡しました。又、太田市で用意を致しましたパブリックビューイングでは大画面を見ながら在校生と一緒に応援を致しました。此れも良い思い出となっております。同窓会活動にも花を咲かせるきっかけとなりました、と同時に会議等の出席率も徐々に向上してまいりました。役員会のメンバー等を確認したところ企業を定年退職したり、自営業の方は後進に道を譲ったりしているのがそれとなく聞こえてまいりましたので意を決し会長職を辞することといたしました。この間同窓会会員の皆様方や学校関係者の方、又本部の役員の方々のご指導やご協力を頂きまして有難うございました。今後は同窓会本部の相談役として本部に籍を置きますが太田工業高校の発展や同窓会活動の発展に少しでも多く寄与できればと考えております。結びとなりますが、会員の皆様方のより一層の御発展と御健勝を祈念いたします。

進化する太工

教頭 關口 真



本校には令和五年四月に赴任し、今年度二年目となります教頭の關口と申します。私は平成十年度から二十二年度までの十二年間、二校目の勤務地として本校に教諭として勤務しておりました。最初の二年間は工業化学科、その後の十年間は電気科に所属し、それぞれ教鞭をとっておりました。この間、学校は変革期を迎えておりました。赴任した年の三年生は七クラス、その後、学級数は減少して六クラスとなり、平成十五年には五クラス編成となりました。同時に機械系と電気情報系の二系からなるくくり募集が導入されるなど、多くの変化がありました。

特に、平成十五年の改革にあたっては、先進的な取り組みをしている学校を調査したり、県外の学校を視察したりして、新たな太工像を模索しました。その成果の一つがくくり募集であり、現在でも太工の特徴の根幹を成すものとして大きな影響を与え続けています。一方、同時に導入された一年を二分した前後期制については、利点も認められたものの

運用上の違和感を払拭することができず、ほどなくして元の三学期制に戻りました。

近年については、新型コロナウイルス感染症の影響や、デジタル化の急速な進展に触れないわけにはいきません。これらが社会全体に多大なる影響をもたらしたことは周知の事実ですが、学校教育も同様でした。コロナ禍での一斉休校は、教育現場にかつてない試練を与えましたが、いかに学びを確保するのか模索する中、時を同じくして進行していた一人一台端末構想を加速することにより活路を見出しました。これにより、生徒は自宅オンライン授業を受けられるようになり、学びの保障が成されたのでした。この一人一台端末は、ICT機器の活用や個別最適な学びなど、今では学び方を多様化させる原動力として大きな役割を果たしています。

今後について考えると、急速に発展している生成AIをはじめとするデジタル化が学校や教育により大きな変化をもたらすことは容易に想像できます。社会の変化、とりわけ産業界の変化に柔軟に対応できる人材育成が急務です。本校では今年度国のDXハイスクールの指定を受け、3Dプリンターやハイスペックパソコンを導入し、部品製作やアプリ開発など、先端的な取り組みを行います。変化をチャンスととらえ、より良い教育環境を提供していくため努力を続けてまいります。今後とも御

支援と御協力をお願い申し上げます。

学校からサクラが消える？

事務長 千田 友弘



入学式というと満開のサクラというイメージもありますが、近年では温暖化の影響もあり入学式の頃には葉ザクラとなっていることもままあります。そんなサクラですが最近では幹に青いネットが巻かれている姿を多く目にします。これはサクラやウメを好む特定外来生物に指定されている「クビアカツヤカミキリ」という害虫による被害拡大を防止するための対策として行われているものです。中国等が原産とされる害虫ですが、平成二十七年に館林にて群馬県内で初めて確認され、わずか数年で東毛地区一帯に生息が確認されるようになりました。令和五年度の統計をみると県内では太田市が最も多く被害にあっているそうです。サクラなどの幹に産み付けられた卵が孵化し、幼虫期には幹を内部から食い荒らしサクラをみるみる枯死させていきます。特に樹皮のひび割れが多い古木は産卵しやすいためか、狙われやすく、木くずとフンが混じった

フラスというものが大量にみられるようになります。成虫になると新たなサクラを求めて数百メートルも飛行し拡散していきます。県内のサクラの名所と呼ばれる場所も多くの被害にあっているようです。枯死したサクラは枝が落下したり、倒木する危険があるため人が集まる公園や学校では伐採せざるをえない状況です。現在、太田工業高校には二十三本のサクラが植栽されており、本が、既にフラスが出ているものが数本あり、成虫も見かけるようになりました。幹の内部に専用の殺虫剤を注入するなど駆除に努めています。来年も満開のサクラで新入生を迎えることができるように維持管理に努めていきたいと思っています。

還暦を迎えて想う事

副会長 岡田 秀一 (18E)



太田工業同窓会の皆様、こんにちは。

私は八年前、同窓会本部役員の先輩とのご縁で本部役員を仰せつかり、現在副会長を務めさせて頂いております十八期電気科卒業の岡田秀一と申します。時が経つのは早いも

ので卒業してから四十二年が過ぎ、今年六十歳を迎える事となりました。私は高校卒業後、専門学校を経て二十歳で地元の企業に就職しました。運良くマイコン関係の開発部に配属になりましたので、入社後は同期の大学卒に負けまいと毎日遅くまで仕事に明け暮れていた事を記憶しております。学生の頃もつと真面目にしっかりと勉強しておくべきだったと、後悔先に立たずとはこう云う事なのでしょね。

それから十年が経ち、現在の会社を設立する事になりました。カッコつけて起業したとはいえ、会社設立の手続きすらも分からない状況でした。色々な専門の方々にご指導を賜り、何とか新たな人生のスタートを切る事が出来ました。今思うと随分と無謀な冒険をしたなあ、と怖くなります。会社が軌道に乗るまで十年位はかかったでしょうか。晴れの日も雨の日も全てが貴重な経験でありました。「もうダメかな」と勝手に自身の限界を感じて、諦めかけた時もありました。そんな苦しい時にでも、取引先のお客様や友人たちに私は支えられ、何度となく会社の危機を救って頂きました。お陰様で今は自身の還暦と共に創立三十周年を迎える事が出来ました。私は今まで与えて頂いた皆様の恩情に少し報いるとすれば、会社の存続と継続こそがその答えではないかと思っています。六十歳はまだ通過点でしかありません。これから起こりうる様々な出

来事に常に真摯に向き合い、次のステージへと歩を進めて参りたいと思います。

結びに、同窓会の皆様のご健康とご多幸を祈り我が母校の益々の発展を心より祈念申し上げます。

未来へつなぐ

副会長 大谷 幸徳 (18M)



この度同窓会報の発行にあたり始めて執筆させて頂きます。私事の思い出話になってしまいうことをお許しください。

私が太工に入学を決めたきっかけは、中学の先輩である「阿久津先輩」が太工野球部に入部して一年の夏から活躍した姿を目の当たりにした時からです。「野球をやるなら太工工業しかない」という夢になりました。(ものづくりも大好きなので)しかし三年間の野球部では、一年の秋ごろから今でいう「送球イップス」になり野球を楽しむ事が出来ず不完全燃焼で終わってしまいました。社会人になってからも草野球を続けていたが「イップス」を克服する事が出来ず、幼少期から大好きだった野球を最後まで楽しむ事が出来ずに終わってしまったことがとても残念

でなりません。しかし、二学年後輩が夏の甲子園に初出場した事は何よりも太工野球部OBで良かったと思える出来事でした。

縁あってわたくしの息子も太工の卒業生です。息子の在学中はPTAの本部役員として学校と関わりながら同窓会本部役員にお誘い頂き、新たな出会いもあり微力ながら活動させて頂いております。PTA本部役員から同窓会本部役員として現在に至り、それまで何十年も余り気に止めてなかった母校の活躍がとても気になるようになりました。全国で高校の統廃合が進んでいます、在校生には部活動や学業を頑張って頂き、次代を担う子供たちに太工の魅力を伝える事と、卒業生の母校への想いを紡ぎ応援して行くことが太工の未来へ繋がるのだと思います。

最後に、太田工業高校の益々のご発展と卒業生の社会での活躍をご祈念申し上げます。

まだ出来る事

前副会長 中村 康美 (2MP)



アレと気が付くと七十三歳か、働きながら学ぶきっかけは友達が少年自衛官を受験してみないかと誘われ

て初めて目標が出来た十五歳の私でした。勉強するも時すでに遅し不合格の通知が届く衣食住の保証も消えた。

次の目標はすぐに見つかった。太田工業高等学校定時制一期生に兄が在籍していた。私も働きながら学んでみようと思った。就職はメリヤス業を選んだ。先輩たちは皆さん優しい人達だった。五時になりタイムカードを押すと自転車に乗って学校に向かった、五時二十分に着くパターンだ。学校の玄関に新田パンと牛乳が置いてある。これを午後七時から十五分で食べる。この時が仲間たちと会話をする唯一の時間だった。先生と仲間と環境に恵まれて四年間無遅刻無欠席無早退で卒業出来た事が今でも生きる糧になっているような気がします。

二十二歳で八木節を始め今でも続けています。良い仲間と巡り会えた感謝しています。その仲間と二十年前に休泊チンドン・クラブを立ち上げました。十年前頃からチンドンの依頼が増えてきました。十一年前に新聞で紹介されたからであろうと思います。八木節とチンドンで年間依頼件数が六十件を超え仕事と趣味を両立させるのが大変になって来た頃コロナ禍により練習も依頼もゼロになりました。コロナ禍も落ち着きはじめ昨年の依頼が三十件以上、今年は四十件を超えるでしょう。老人ホーム慰問では懐かしさもあったか満面の笑顔で喜びを表現する人、幼

い頃を思い出し涙する人、様々ですが古き良きものの素晴らしさを教えられます。施設や地区区長からの依頼に（まだ出来る事）と思い頑張ろうと思います。

還暦を過ぎて思うこと

書記 對比地 俊一 (18E)



昨年十二月に還暦を迎え、内ヶ島の太工旧校舎に通っていたころは、TVでは、ベストテン等歌番組が全盛で、金八先生ドラマなんか流行っていたのを思い出します。当時学生服は、短ラン、ボンタン全盛期で、少しやんちゃな学生生活を送っていたかもしれません。

当時の太工に於いて、英語の岩崎先生、物理の高木先生、電工学の鈴木先生辺りが、年齢五十才を越えたお年だったでしょうか。当時の印象としては、すごく大人（正直に言えば、お爺ちゃん）だな、と感じていたことを記憶しております。現在の自分は、当時の先生方の年齢を追い越している訳で、周りの同年代の友人達と良く話をするのですが、当時の先生方のイメージと比較する

と、自分達は幼く本当に六十才になったのかと実感出来ないことが正直な気持ちです。

思い返すと、二十才くらいの時、電気科B組のみんなと担任の田中先生を交え、今は在りませんが、高林の同窓生の実科がやっていた宴会場で同窓会を行ったことがありました。それ以降は、集まる事無く時間が過ぎてしまいました。学校も新校舎へ引っ越しされたこともあり、行く機会も無くなり同窓生や学校とも疎遠な状態が続いておりましたが、四年前に学校評議委員会のお声がかかり、学校とのか縁が復活しました。

それから二年後、今度は、同級生の岡田君から声が掛かり、同窓会のお仲間入りをさせて頂いたいただき、一気にお付き合いが深まることになりました。学校評議員、同窓会を通じて、多くの子供達、現職の先生方、諸先輩方をはじめ同窓会の皆さんと知り合うことができ、今後の人生の生き甲斐が見つかりました。もう少し成長していきたいと思っておりますのでこれからもお付き合いよろしくお願いいたします。



夢

会計監査 新井 進人 (44M)



このたびの同窓会会報三十七号の発行に際し、誠におめでとうございます。さて、皆さんの夢は何ですか？私は幼い頃から卓球をやっており、「卓球で全国大会に出場すること」が夢です。しかし、全然強くなく大会や試合に出ても負けてばかり。そもそも運動神経が良いわけでもなく、小学六年生ではお腹が邪魔で自分のつま先が見えないほど太っていました。中学生・高校生になってからも卓球は続けていましたがトレーニングが嫌いで、サボることの方が多く、卓球部とバレーボール部を兼部していました。そんな時、当時交際していた女性と混合ダブルスを組み卓球の地区大会に出場しました。結果は私のミスで一回戦敗退。帰りに道に彼女は必死に私を勇気づけてくれました。しかし、彼女はその日トラックに引かれこの世を去ってしまいました。そこで私は彼女の夢を継ぐと心に決めました。その夢が「学校の先生になること」と「卓球で全国大会に出場すること」でした。そこから毎日トレーニングに励むも一向に結果は出ませんでした。周りに

バカにされ、「無理だ」と言われました。それでも努力をし続け、そこから十年以上が経過した今、群馬県の教員を代表して全国教職員卓球大会に出場することができました。まだまだ弱く個人戦で一回戦突破することはできていませんが、昨年は都道府県対抗の団体戦でベスト八に入ることができました。『継続は力なり』という言葉通り、誰に何と言われようと、ただひたすらに、ひたむきに努力をすれば夢は叶います。夢を叶えることに、努力することに遅いなんてことはありません。太田工業生の皆さんも諦めないで「夢」を追いかけてください。

生徒と取り組む被災地支援の
為のキッチンカー製作

会計 小竹 隆志 (34M)



平成十年機械科卒の小竹です。私は大学卒業後、太田工業高校で八年勤務し、伊勢崎工業高校へ異動、四年前に再び太田工業高校へ戻って参りました。

現在所属している電子機械科では、卒業生の星野さんと共にキッチンカー製作に取り組んでいます。きっかけは私の教え子である星野さん

が昨年開校記念公演を行った際、災害支援のためのキッチンカー製作の夢を話した事でした。その話を聴いて、とても興味のある内容であったのと、教え子の夢に協力してあげたいなと思い、「学校で一緒にやろうよ」と声をかけました。

声をかけたのは良いものの、車の改造は素人だし、どのように進めていこうかと悩んでいたところ、学校で工業祭が開催されました。その中で群馬自動車大学校様が参加されていたので、職員の方に声をかけさせて頂きました。今回の件を相談したところ、ご協力を頂けることとなりました。この計画をスタートさせる事ができました。偶然にも本校卒業生の教員の方がおり、しかも板金塗装の指導をされている長沢先生をご紹介させて頂くことができました。四月より毎週金曜日、課題研究の時間に生徒へのご指導に当たって下さっています。

現在、群馬自動車大学校様の他にも、本校OBのN・K・I・T・中村様のサポートをはじめ沢山のOBの皆様や企業様から応援していただいております。

現在、生徒たちは外装・内装・溶接の三班に分かれ作業に当たっています。沢山の皆様のご支援のおかげで、生徒達の手により災害支援車両がもうすぐ完成しようとしています。

年末に向けて車両の完成を目指していますが、完成したら終わりではなく、今後車両を運用するNPOと

学校がどう連携して取り組んでいくかを星野さんと話し合っています。今後の取り組みにもご期待下さい。

なお、学校での取り組みの様子をインスタグラムにて紹介しています。星野さん監修の元、撮影・編集は全て生徒が行っております。下記のQRコードよりアクセスできますので、ぜひご覧になつて下さい。

日本最大級の被災地支援
キッチンカー製作

星野 茂 (43D)



この度、平成十九年に卒業しました星野茂は自身が取締役統括部長を務める新田製パンで災害支援キッチンカープロジェクトを立ち上げました。また、その車両製作に関して製作サポーターとして太田工業高等学校、群馬自動車学校と共同で製作しています。

このプロジェクトの始まりは二〇一一年の東日本大震災まで遡ります。ちょうど私は大学卒業を控え四月からパン技術研究所へ入所を予定していた矢先の出来事でした。何か出来ることは無いだろうか

父でもある新田製パン社長に相談すると父も同じ意見でパンを一万食無償提供することを社内で決定しました。私が物資輸送の担当となりどうすれば現地へ届けられるか。そこから困難の連続でした、最初に太田市へ問い合わせるも「県へ問い合わせてください」とのこと、群馬県へ問い合わせると今度は日持ちしないものは無理、カップ麺みたいなものしか受け付けられないとの事、現地は水もない火もないそんな状況でカップ麺届けてもどうなることかと啞然としました。その後、やむを得ず、直接宮城県へ電話しました。「パンやおにぎりなどすぐに食べるものが欲しい!!」ありがたいとございます!!」そこからは素早く決定してすぐに一万食のパンをトラックに載せ現地へ向かいました。現地の状況、風景は今でも記憶に残っています。その際に強く思ったのが「災害時などで被災された方々をサポートする車をつくりたい」でした。その時は漠然と思っただけですぐにはカタチにすることはできませんでした。

しかし、昨年の一月に今ならカタチにできるかもしれないと一念発起、まずは構想を新田製パン社内で起案、賛同いただき車両選定が始まりました。そんな中で出会ったのが大型テレビ中継車でした。この車両なら大型の発電機を搭載しているので、ライフラインが無くてでも十分活動が出来ます。

大体の構想がカタチになってきま

したが、まだまだ課題があり踏み出せずにいました。そんな中、昨年十一月の開校記念式典で講演をさせていただく機会をいただき、そこで今回の取り組みをお話したところ、工業高校からもサポートの申し出を頂きまして、私自身さらに一歩踏み出すことが出来ました。その後、車両を昨年末に引き取りに行ったのですが、一月一日に能登地震が発生、七尾市に三千食のパンを寄付いたしました。このプロジェクトがもう少し早ければと後悔の念もありますが、今回、能登地震の支援で現地入りしましたが学ぶことも多く今回生徒たちと製作する車両は十分機能すると確信しました。

今後は非常時だけでなく、こども食堂等平常時の食をサポートすることとを目標に「非営利活動法人新田フードサポート」を立ち上げ、車両の管理運用を行いたいと考えております。この車両で一人でも多くの方々が安堵していただくそんな支援車両にしたいと考えております。



絆展を終えて

糸井 優 (2MP)



絆展は太田工業高校美術部が発足されてから半世紀経った頃、当時の美術部の顧問であった中島勇作先生の「皆さんに見ていただいたら」の一言から始まった。美術部を苦勞して創設した一期生の笠原久央さん、三期制の広瀬諭さん、四期生の金子春男さん、五期生の馬込次雄さん、六期生の私(糸井)が参集し、顧問であった中島先生、竹澤征雄先生に参加いただいた第一回展が二〇一九年八月に開催できた。

そして第二回展が二〇二三年八月に開催された。前年の十二月末に中島先生が急逝され第二回展は中島先生の追悼展になってしまった。私も中島先生追悼のため新作を描き先生への感謝の心をお送りした。

中島先生は卒業後も生徒の事を気にかけてくれ、グループ展、個展、支部展には必ずお見えになって激励してくださった。今日まで絵を続けてこれたのも中島先生のおかげと感謝しています。

定年後すでに十年以上経ちますが、仕事を全うできたのは大いに絵が役立ってたと思う。仕事に行き詰

まり、気の滅いることなど多く困難があったが、絵に熱中する事で気分転換にもなり乗り越えてこれたと考えている。

第二回絆展には県内外多く来場いただいた。中島先生の地元である伊勢崎市からは、多忙のご公務の中、市長がお見えになった。(伊勢崎市の文化向上に貢献してこられた先生の力)

末筆ながら、太田工業高校同窓会・参事会には後援・支援いただきお礼申し上げます。第三回絆展も実施する予定です。今後も変わらないご支援よろしく願います。ありがとうございました。



2024年 一線展作品と



第73回 一線展(2023)「文部科学大臣賞」時空跡・未来 F100(油) 糸井 優

現代の名工の責任

松崎 一浩 (7M)



高校卒業後は三菱電機に入社し技能五輪の選手として訓練の日々を送ることからスタートしました。配属後は金型製作を主として技能系社員の教育や自社グループ技能競技大会選手のコーチングに携わり、技能向上の推進をしてきました。

『現代の名工』に認可されたという報を頂き、この意義は何にあるのかと改めて考えました。

私レベルの技能の持ち主は世の中に割と多くいる筈ですが、その人達が後進の育成に携わっているかを考えると昨今の製造業離れが表すように極めて減少しているのが現実だと思われます。

幸い私は、業務の傍らで高卒技能系の研修生指導を長期にわたり経験してきました。これにより時代の経過に伴う若者の考え方、捉え方にも変化があることを感じられました。

我々の若い時分は、その殆どが先輩に厳しく指導され技を盗んで超一流に這い上がった人であり、手の生傷は当たり前だった時代でした。

しかし、指導上ありがちな「我々が若いころは…だったぞ!」という

武勇伝。これは現代の若者にとって単なるおじさんの思い出話に過ぎないのです。

現代の名工の「現代」とは、今なのです。産業を維持発展させるためには、今の若者の育成が急務であると考えます。

生きるために水や食料が必要なのに、多様化する時代であってもモノ作りの基本は不変であることを伝えなければなりません。

「現代の名工」としてあるべき指導とは、自らが四十年間磨いた技能でモノを具現化する姿を見せることです。そこから後継する若者に対し技を磨く楽しさ、その可能性の大きさを理解させ啓発させることです。

私は「現代の名工」となった今、我が子を育てるような途切れない指導を後進に注ぐ責任を背負ったと感じています。



人生の分かれ道

常任幹事 保泉 竜太 (56D)



令和元年卒業の保泉竜太と申します。今はプレス工場の保全員をしています。保泉は、機械のお医者さんなので、毎月やらなければならぬ点検の他に、急な故障で時間を奪われたり、作業ミスで自分が命を落とす危険性もあります。今は長時間残業できない時代なので、質の悪い仕事をしていると思う気が無いと思われてしまったり、技術の継承が遅れ中堅も少ない高齢化の進んだ私の職場では、多くの若手が頭を悩ませながら仕事をしています。

生徒の皆さん、早ければ数年で社会人です。目標のある生徒さん、社会では全ての行動に責任が伴います。覚悟を決めてください。目標が無い生徒さんは、成績を伸ばす事を意識してみてください。進路選びに苦戦する事が減ると思います。「こんなはずじゃなかった。」と後に後悔するのが一番辛いです。

これを読んだ生徒さんは、一度自分の未来を真剣に考えてみるのはいかがでしょう。時間はまだまだあるはず。職場は結局運が絡むと言って嘆くにはまだ早いですよ。

無限大

常任幹事 加藤 琉翔 (59D)



思い返せば四年前、私たちの高校生活はコロナ禍で始まりました。休校、分散登校、行事の縮小など私たちの思い出は奪われていきました。そんな中入部した陸上部も自主練習から始まりました。コミュニケーションを取ることもできなければ、一緒に頑張る仲間もない、辛い思いをするばかりでした。でも私は思いました。ここで努力をした人が勝ちだ。コロナ禍を通して、自分自身で行動する大切さを強く学びました。

待ちに待ったみんなで練習する日が来ました。やっぱり仲間と一緒に走った方が何倍も楽しかったです。唯一のチーム戦である駅伝では心を一つにしないといけません。同じ目標に向かって努力する仲間がいることで、私たちの絆は無限大になっていきました。

コロナ禍で辛いこともたくさんありました。その分学ぶこともたくさんありました。陸上部で出会えてなければ私たちの絆はありません。今でも先輩、後輩関係なく遊ぶ仲間はこれからも無限大に続いていきます。

進路指導部

令和6年10月25日現在の中間報告

1. 令和6年度 3年生の進路決定状況

	県内就職	県外就職	4年制大学	短期大学	専門各種	未定	合計
希望者数	70	13	20	0	32	2	137
内定	66	12	—	—	—	—	—
合格率	94.3%	92.3%	—	—	—	—	—

2. 令和6年度 本校への求人状況

職安管轄	求人件数	求人数
太田市内	159	806
県内	526	1077
県内計	685	1883
県外計	930	1887
合計	1615	3770



3. 令和6年度 現2年生の進路希望状況

県内就職	県外就職	4年制大学	短期大学	専門各種	未定	合計
74	11	20	1	33	11	150

4. 令和5年度 卒業生の状況

県内就職	県外就職	4年制大学	短期大学	専門各種	未定	合計
76	14	19	0	45	0	154

編集後記

今年も暑い夏でした。

同窓生の皆さまは、元気にお過ごしでしたでしょうか？ 私は暑さが身に染みる年頃となり、在校生が、学業や部活に汗を流している中、エアコンから離れられない日々を過ごしていました。来年こそ、無理せず、焦らず、ちょっとした汗をかいて健康管理に努めたいと思う今日この頃です、同窓生の皆様も、お身体にご自愛してお過ごしください。

(工藤記)

